

口頭発表

動物を活用した活動が児童に与える影響に関する児童のお礼文からの一考察

土田あさみ*・八木健太・増田宏司・大石孝雄

東京農業大学農学部

Study on effects of activities using animals for elementary school students in their descriptions

TSUCHIDA Asami*, YAGI Kenta, MASUDA Koji, OISHI Takao

緒言

教育施設における児童対象の活動は教育に資するものが望ましい。近年大学において、総合学習の時間を利用して小学校児童が訪問することが珍しくない。農学部の本学においても年に1, 2回のペースで周辺の小学校児童が授業に訪問する。我々バイオセラピー学科教員が担当する場合、動物や植物を活用・介在させた活動を実施している。その際、児童は特に動物に対する嗜好性が高いことが観察される。そこで、動物の児童への刺激力(魅力)について検討することを試みた。

対象と方法

対象：東京農業大学農学部にて「総合的な学習の時間」として活動を行なった、厚木市立小学校児童、3年生32名、4年生40名、5年生37名が記述した、訪問に対するお礼文(3年生32編、4年生31編、5年生34編)を分析対象とした。活動は平成23年11月に実施され、お礼文は平成24年2月に受け取った。活動内容：3学年とも、大学構内の植物栽培農場での農場体験(60分)、園芸療法の庭での散策(10分)、植物関係の実験室での球根の解剖と観察(60分)、および動物を飼養している施設で犬との挨拶やしつけ方ならびに馬の手入れ方法や餌についての実習(60分)を、それぞれ体験した。

分析の方法：児童が記述したお礼文を、記述された活動分野(動物か植物か)や感想、活動内容の記述表現、記述の視点等に着目し、学年別にそれらの出現頻度や割合を、植物にかかわる結果と比較して分析した。

結果：①お礼文中にみられた文言の頻度をみると、どの学年も名詞句では「犬」「馬」が、形容詞句では

「楽しい」が、動詞句では「触る」「教える(教えてもらった)」が最も多くみられた(表1)。②記述された活動内容を動物と植物の分野ごとに比較すると、どの学年も8割以上が動物に関して何か記述していた($X^2(2)=5.804, p=0.055$)が、動物と植物の両方について記述していたのは5年生が3, 4年生に比べて明らかに多かった($X^2(2)=6.171, p=0.046$, 図1)。

表1 お礼文中の文言の頻度

3~5年生						
順位	名詞句		形容詞句		動詞句	
	語句	頻度	語句	頻度	語句	頻度
1	犬	74	楽しい	61	触る	32
2	馬	69	可愛い	20	教える	29
3	パンジー	19	色々だ	17	行く	27
4	球根	16	もったいない	14	する	19
5	ガーデン	14	すごい	13	残る	15

N: 97, 1文書あたりの平均語句数: 132

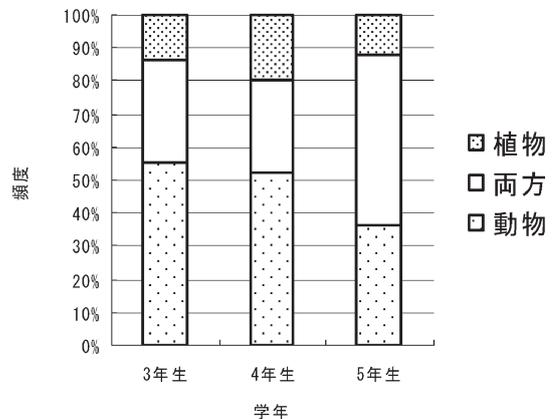


図1 記述された活動分野

*連絡先: a3tsuchi@nodai.ac.jp

②動物に関する記述の中で、記述内容についてみると、「ふれあい体験」を記述したものが最も多く(42%)、次に「犬はかわいい」と「馬の手入れ」の記述(15%)であった。犬の扱い方に関する記述は6%、馬では「馬は温かい」が12%、「馬はかわいい」が5%であった。③お礼文の記述表現についてみると、教えてもらった、学べた、わかった、活動に盛り込んだ学習内容等について記述したお礼文(「学習」)は学年により違いがみられ、5年生で特に多くみられた($X^2(2)=11.425$, $p=0.003$, 図2)。一方、「さわった」「おいしい」「きれい」「いい匂い」等の知覚刺激を記述したお礼文の割合はどの学年も変わらなかった。5年生では、球根の解剖について特に理科的な具体的な記述がみられた:「花が咲く前からおしべとめしべがあるなんて知らなかったのでも興味深かったです」「特に心に残ったのはチューリップの球根の中身を観察できたことです」など。

考察: 以上の結果から、動物や植物との活動は児童に知覚刺激を与えたこと、動物との活動は植物との活動と比較して児童に強く記憶されたがその主体は学習内容より「ふれあう」ことであったこと、5年生は3,4年生と比較して明らかに学習する態度に違いがみら

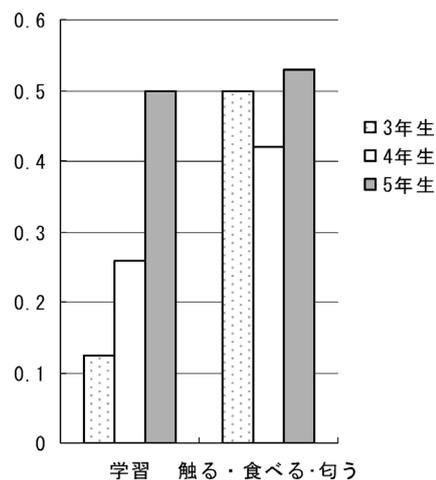


図2 お礼文中の記述表現

れたこと等が明らかになった。したがって、動物との活動において動物の刺激の強さは学習内容を凌駕する可能性が示唆されることから動物を活用した学習プログラム内容には工夫が必要であること、農学部における高学年の学習プログラムは理科の要素を多く取り入れたものが望ましいこと、等が提案できると考えられた。